

「若手オペラ歌手によるバロック音楽のコンサート企画・運営」

荏原 孝弥

《概要》

若手オペラ歌手によるバロック音楽のコンサートを開催。歌手は全員、新国立劇場オペラ研修所の修了生であり、これから日本のオペラ会を牽引していく若手人材である。器楽陣は古楽オーケストラ「Promusica baroque Academy プロムジカ使節団」の主要メンバーで構成。前半はC.モンテヴェルディの多声マドリガーレを計11曲、後半はソロでバロックオペラのアリアを演奏する。

日時 2023年5月19日(金)夜

会場 マリーコンツェルト

内容 5声の声楽アンサンブル+古楽器による演奏会

編成 ソプラノ吉田美咲子、アルト十合翔子、テノール荏原孝弥、鳥尾匠海、
バス湯浅貴斗、バロックヴァイオリン池田梨枝子、通奏低音
圓谷俊貴(チェンバロ or オルガン)、サクソバット小野和将

《目的・達成したい成果》

日本におけるオペラ歌手の新たなスタンダードを打ち立てる「新しい取り組み」を達成すべく、その第一歩として本コンサートを企画した。

「新しい取り組み」と我々の考える新たなスタンダードとは、以下のとおりである。

- 1 オペラ歌手が初期バロックの楽曲のレパートリーに真摯に向き合うこと。
- 2 アンサンブル作品を積極的に演奏し、あらゆる「調和」感覚を研ぎ澄ませること。
- 3 我々の意志をお客様の前で披露し、共感と感動を与えること。

私はオペラ歌手としての声楽を学びに6年間イタリアに留学していた際、一番衝撃を受けたことは、バロック音楽、特にモンテヴェルディの音楽を学ぶことが重要だという認識が、「ヨーロッパの歌手哲学のスタンダードにある」と言う事だった。恩師マテウツィ氏から受けたその発見は、まさに目から鱗であり、私はその経験をこれからの日本のオペラ界の発展に役立てたいと思っている。バロック音楽に触れて身につけることのできる技術(アンサンブルでも聴こえるイタリア語の発音法、メッサ・ディ・ヴォーチェヴィブラートのコントロール、即興的要素、フィオリトゥーラ、アジリタの技術、和声感)は、モーツァルト以降の歌唱にも大きな利益をもたらすことは、私が身をもって学んでいるところである。そして、それらは本来、オペラ歌手が必然的に備えているべき技術と知識であるが、現代のオペラ界においてはこれらが疎かにされている場合も多く、懸念をいただいている。改革とも言うべ

きこの取り組みの第一歩として、当コンサートを企画し、更には古楽のスペシャリストかつ、同世代の若く探究心あふれる「プロムジカ使節団」の主要メンバーとの共演をすることにより、初期バロックの世界を深掘りしたい。それは、お客様に共感と感動を与えると信じて疑わない。

《将来の夢・今後の展望》

今回のような初期バロックのアンサンブルに焦点を当てたコンサートを定期的で開催(年2~3回)し、メンバー同士の歌声とアンサンブル、技術の成熟を図りたい。定期会員のような制度を作りリピーターを増やし、更には SNS 等を利用した宣伝活動に力を入れ、新たなお客様の獲得にも積極的に取り組んでいく。

今後の展望としては、大規模なバロック期のオラトリオ(メサイアなど)オペラ(オルフェオ、ジュリアスシーザーなど)にも挑戦したい。

最終的には、バロックのみならず、演奏機会の少ないベルカント・オペラやオラトリオなどの声楽作品をオリジナル楽器のオーケストラと一緒に、これまで行われていなかった新たな切り口で日本初の演奏の実現を目指したい。

荏原 孝弥 (オペラ歌手)

2010年北海道教育大学岩見沢校音楽コース声楽専攻卒業。2015年イタリアオジモ市オペラアカデミー(Accademia d'arte lirica Osimo)修了。2019年新国立劇場オペラ研修所第19期修了。(研修中、ANAスカラシップによりミラノ・スカラ座アカデミー、ミュンヘン・バイエルン州立歌劇場研修所で研修を受ける2022年東京藝術大学大学院音楽研究科声楽専攻修了。《皇帝ティートの慈悲》、《ドン・ジョヴァンニ》、《イル・カンピエッロ》、《ロミオとジュリエット》などのオペラに出演。バロック音楽では、《メサイア》、《マタイ受難曲》などのソリストを務めたほか、イタリア・ナポリにおいて Pietà de' Turchini バロックオーケストラと共演。ボルボラ作曲の《エスペリデスの園》(イタリア蘇演)、セッリッティ作曲の《スターバト・マーテル》に出演した。2015年、第3回ベアータ・パオラ・モンタルディ宗教曲国際声楽コンクールで第3位を受賞。